

- 1 日 時 平成23年11月〇日 (〇)
- 2 場 所 広島市立〇〇中学校
- 3 学年・学級 1学年〇組
- 4 題 材 名 「自分のシンボルマークをデザインしよう。」

5 題材について

(1) 題材観

本題材は、生徒が自分の名前に使われている文字（漢字やかな、イニシャルなど）をもとにして、自分自身の個性や特徴、例えば性格や特技、好きなものなどについて考え、それらのイメージを形や色彩に表し、文字と融合させながら、自分のシンボルマークをデザインするものである。

生徒が自らの個性や特徴について深く思考し、それらのイメージを形や色彩に結び付けて発想し、自分のシンボルマークを制作したり、他者の作品の形や色彩から受ける印象を作者の個性や特徴と結び付けながら鑑賞したりする。これら一連の学習活動によって、形や色彩の性質や、それらがもたらす感情を理解したり、形や色彩の特徴などをもとに対象のイメージをとらえたりするという〔共通事項〕を意識した題材として位置付けることができる。と考える。

また、本題材の学習活動を通して、自分自身や他者について深く考えたり、他者の意見を聞くことで、人によってさまざまなものの見方や考え方があることを知ったりすることにより、自尊感情や他者理解といった道徳的価値の涵養を図ることもできる。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、美術の授業に意欲的に取り組むことができるが、深く思考することや柔軟に発想することが苦手な生徒が多く、発想や構想の段階において、粘り強くアイデアを練りあげることなく、安易に終わらせてしまうことがある。また、自分の求める形や色にこだわって追究したり、集中力を持続して、ていねいに作品を制作したりすることに課題がある生徒がいる。

前期に行った「文字のデザインの学習（名前のレタリング）」や「色彩の学習」において、生徒は自分らしさを色や模様で表現したり、色彩の基本的な知識や絵の具の扱いなどを学んだりしている。

鑑賞では、自分が感じたことを言葉によって豊かに表現することができる生徒がいる一方で、自分の考えや思いを言葉にまとめたり、発表したりすることに苦手意識をもっている生徒がいる。また、自分の意見を発表することに消極的な傾向が見られ、積極的に発表しようとする生徒は一部である。

(3) 指導観

導入においては、題材への関心を高めるために、さまざまなシンボルマークや参考作品を鑑賞し、形や色彩からシンボルマークに込められた意味を考えるようにする。また、学習活動全般にわたって意欲を持続させるために、作品をデジタルデータに変換し、自分で使用して楽しんだり、友達と交換したりすることのできるミニシールを作成することを告げ、制作に入る。

発想や構想の段階においては、まず自分自身の個性や特徴について、自分でじっくり考える時間を設定するとともに、4人程度の班でお互いの個性や特徴、他者から見た自分のイメージなどを話し合う時間を設定することにより、自己理解を深め、そこから形や色彩のアイデアを引き出すようにする。また、発想

したことをもとに、複数のアイデアスケッチをワークシートに描き、その中から最も自分のイメージに合うものをひとつ決めて下絵を描くようにし、段階を踏んで構想を練るようにする。

表現の段階では、美しい線や美しい形を描くために、下絵を描く際に方眼紙を使用し、定規やコンパスなどの用具を適切に使って描くようにする。また、色彩の微妙な色の違いを追究し、ていねいに作品を仕上げるようにするため、配色カードを使って色彩を決定したり、絵の具でイメージどおりの色をつかって平塗りで彩色したりするようにする。

鑑賞の段階では、大型テレビに作品を提示したり、生徒一人一人に学級全員の作品をカラーコピーした鑑賞資料を配布したりして、じっくりと鑑賞できるようにする。また、形や色彩などを鑑賞の視点として示すとともに、例文を示すことにより、感想文の書き方のイメージをつかませる。さらには作品から感じ取ったことを自分の言葉で表現する時間を確保し、その後、班での話し合いや全体での発表の時間を確保する。

6 題材の目標

自分のシンボルマークをデザインすることに関心を持ち、形や色彩の効果を考えて構想し、創意工夫して表現するとともに、他者の作品から作者の意図や表現の工夫などを感じ取り味わう。

7 題材の評価規準および学習活動に即した評価規準

評価の観点	題材の評価規準	学習活動に即した評価規準
1 美術への 関心・意欲・態度	<p>表現 美術の創造活動の喜びを味わい、自分のシンボルマークをデザインすることに関心を持ち、主体的に構想を練ったり材料や用具を生かしたりしようとしている。</p> <p>鑑賞 シンボルマークの造形の美しさ、作者の個性や特徴、表現の工夫などに関心を持ち、主体的に感じ取ろうとしている。</p>	<p>① 文字の形や自分自身の個性や特徴などを考えて表現デザインすることに関心を持ち、主体的に構想を練ろうとしている。</p> <p>② 形や色彩などの表し方、定規や配色カードなどの使い方などを主体的に工夫して表現しようとしている。</p> <p>③ シンボルマークの造形の美しさ、作者の個性や特徴、表現の工夫などに関心を持ち、主体的に感じ取ろうとしている。</p>
2 発想や構想の 能力	<p>感性や想像力を働かせて、文字の形や自分自身の個性や特徴をもとに美しさなどを考え、表現の構想を練っている。</p>	<p>① 文字の形や自分自身の個性や特徴をもとに、美的感覚を働かせて、形の効果を生かして美しさなどを考え、表現の構想を練っている。</p> <p>② 考えたシンボルマークの形や自分自身の個性や特徴を基に、美的感覚を働かせて、色彩の効果を生かして美しさなどを考え、表現の構想を練っている。</p>
3 創造的な技能	<p>感性や造形感覚などを働かせて、形や色彩の表し方を身に付け、意図に応じて定規や絵の具などの使い方を考え、創意工夫して表現している。</p>	<p>① 形の表し方を身に付け、表したいイメージをもちながら、意図に応じて定規などの使い方を考え、創意工夫して表現している。</p> <p>② 色彩の表し方を身に付け、表したいイメージをもちながら、意図に応じて絵の具などの使い方を考え、創意工夫して表現している。</p>
4 鑑賞の能力	<p>シンボルマークの形や色彩などから造形の美しさ、作者の個性や特徴、表現の工夫などを感じ取り、自分の思いや考えをもって味わっている。</p>	<p>① シンボルマークの形や色彩などから造形の美しさ、作者の個性や特徴、表現の工夫などを感じ取り、自分の思いや考えをもって味わっている。</p>

8 指導と評価の計画

時間	学習活動	学習活動に即した評価規準				評価方法
		美術への 関心・意 欲・態度	発想や構 想の能力	創造的な 技能	鑑賞の 能力	
4	<ul style="list-style-type: none"> 参考作品を鑑賞し，題材について把握する。 自分の個性や特徴について考える。 アイデアスケッチなどにより構想を練る。 方眼紙や定規，コンパス等の製図用具を活用し，下絵を制作する。 	1-①	2-①	3-①		活動の様子 ワークシート アイデアスケッチ 下絵
4	<ul style="list-style-type: none"> トレーシングペーパーで下絵を転写する。 配色カードを使い，色彩を決定する。 アクリル絵の具で彩色する。 	1-②	2-②	3-②		活動の様子 ワークシート 作品
1	<ul style="list-style-type: none"> 作品を鑑賞し，感じ取ったことを自分の言葉で表現する。(本時) 	1-③			4-①	活動の様子 ワークシート

9 本時の目標

シンボルマークの形や色彩などから作者の個性や特徴，表現の工夫などを感じ取り，自分の思いや考えをもって味わう。

10 本時の準備物

生徒作品（シンボルマークの原画，デジタルデータ，全員の作品をカラーコピーした鑑賞資料），コンピューター，大型テレビ，ワークシート

11 本時の指導過程と評価

	学習内容・学習活動	教師の支援 (▲努力を要する生徒への支援)	評価規準・評価方法
導 入	○ 本時の学習目標を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 目標を掲示物により視覚的に示すとともに，鑑賞の視点である「形」「色彩」と，「作者の個性や特徴」「表現の工夫」「自分の思いや考え」などのキーワードを黒板に貼り，学習目標をはっきり認識させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> シンボルマークの形や色彩などから，作者らしさや表現の工夫などを感じ取り，自分の思いや考えをもって味わう。 </div>	
	○ 班員の作品を個人で鑑賞し，作品から感じ取ったことをワークシートに記述する。	<ul style="list-style-type: none"> 全員の作品を黒板に掲示するとともに，生徒一人一人が手元で鑑賞できるように，学級全員の作品をカラーコピーした鑑賞資料とワークシートを全員に配布する。 	1-③ 活動の様子 <ul style="list-style-type: none"> 意欲的に鑑賞したり，ワークシートに記述したりしようとしているかを見取る。

展	<p>○ 4人班で、班員の作品から自分が感じたことを発表し、話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートへの記述の仕方の例を示す。参考作品を大型テレビに提示し、その作品から感じ取ったことを述べた感想文を音読する。 生徒がワークシートに記述する時間を十分に確保する。 ▲ 記述が進まない生徒には、机間指導で作品の形や色彩について具体的に助言する。 班内での話し合いのしかたを指示する。作者以外の生徒が順に感想を発表し、最後に作者が自分の考えを発表する。 発表した感想について、さらにお互いの考えを述べるなど、話し合いを深めさせる。 ▲ うまく話し合いが進まない班には教師がかかわり、話し合いに加わるなどして支援する。 	<p>4-① ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや考えをもち、記述しているかを評価する。 <p>1-③ 活動の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> 主体的に発表したり、話し合ったりしようとしている意欲や態度を見取る。
開	<p>○ 学級全員の作品から一つの作品を選び、感じ取ったことをワークシートに記述する。</p> <p>○ 学級全体で感想を発表し、話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 作品を選ぶ視点は「形や色彩などから作者らしさや、表現の工夫などを感じ取ることができる」ことであることを指示する。 感想の発表は生徒の意欲を優先するが、積極的に発表しようとする生徒がいない場合は、教師が指名したり、話し合いが深まりそうな作品の感想を教師が求めたりすることもあり得る。 感想の発表があった作品について、他の生徒の感想を発表させたり、その作品の作者がいる班の話し合いの内容を発表させたりするなどして、話し合いを深めさせる。 話題に出ている作品を大型テレビに提示する ▲ 教師が司会をしながら、説明が不十分な発表には言葉を補足したり、整理したり、繰り返したり等の支援を行う。 	<p>4-① ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや考えを深め、記述しているかを評価する。 <p>1-③ 活動の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> 主体的に発表したり、話し合ったりしようとしている意欲や態度を見取る。
終末	<p>○ 作品（ミニシール）と本時の目標についての自己評価を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 作品（ミニシール）と自己評価表を配布し、4段階で記入させる。 	